

「図書館だより：12月号」

2020/12/11 発行

大島高校安陵図書館

今年の流行語大賞「3密（密閉・密集・密接）」が表しているように「新型コロナウイルス」に始まり終わる1年でした。「巣ごもり」という言葉も耳にしますが、年末年始家で過ごす場合は、勉強と読書を忘れないでね。

2020 12月						
日	月	火	水	木	金	土
13	14	⑮	16	⑰	18	19
20	21	⑳	23	24	25	26
27	28	29	30	31		
2021 1月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9

※12/11（金）～12/25（金）の期間、長期貸出を行います。期間中、貸出冊数を1人⇒7冊まで増冊します

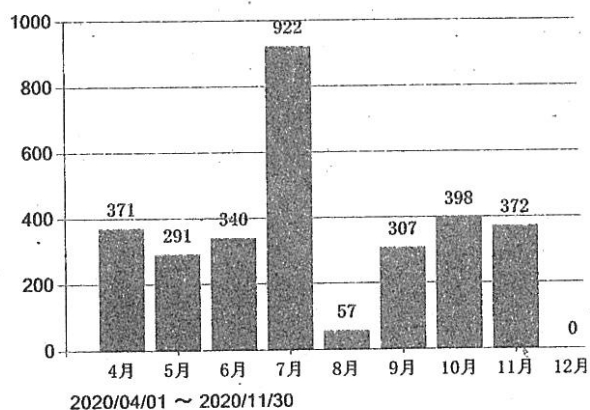
【冬休みの開館案内】

- 開館時間 8:30～16:30
- 開館中は、貸出・返却・勉強等出来ます。
- 本の返却日は1/8（金）の始業式の日です。
忘れないように、返却してください。
- カレンダーの「網掛け」部分は、閉館日です。

◆ ⑮・⑰・⑳の日、開館時間を18:30まで延長します。

◆ 保護者の方にご協力頂いた「図書館開放ボランティア」は、12月末で終了します。1月から図書館の火・木の開館延長はありません。

貸出傾向分析(月別)



★ 多読者クラスベスト8★

【4月～11月】

- | | |
|----------------|----------------|
| 1位. 3-7 (485冊) | 5位. 3-2 (224冊) |
| 2位. 1-6 (351冊) | 6位. 2-4 (190冊) |
| 3位. 1-4 (309冊) | 7位. 2-1 (163冊) |
| 4位. 3-1 (236冊) | 8位. 2-7 (151冊) |



ベストブック10 (一番借りられた本)

- 青くて痛くて脆くて 住野 よる/著
- あの日、君と誓った約束は 麻沢 湊/著
- きみの存在を意識する 梨木 アリエ/著
- 図書館戦争 有川 浩/著
- か・く・し・ご・と 住野 よる/著
- かがみの孤城 辻村 深月/著
- 小説「安楽死特区」 長尾 和宏/著
- コーヒーが冷めないうちに 川口 俊和/著
- 5分後に禁断のラスト エブリスト/編
- 読むだけで面白いほど成績が上がる高校生の勉強法 清水 章弘/著



新刊書大量入荷！！

次回(12/15)発行予定の『新刊 あんない』で紹介します(*^^*)

※ 裏面に〈ビブリオ県大会報告〉と〈名作まちがいさがし〉が掲載！！

鹿児島県高校生ビブリオバトル大会報告



2年生 畑友一朗さん 2年連続優勝

1年生 岡山志穂さん、3年生 橋口結さんもブロック優勝

日時：令和2年11月28日（土）

会場：県民交流センター



▲各ブロックから決勝に勝ち上がった5名。左から3名が大島高校生。

決勝大会では、5分間の本のプレゼンに加え、2分間の質疑応答を行い会場にいる約200名の聴衆が「最も読みたくなった本」に投票しチャンプ本が決定します。3名とも、本のあらすじや自分と本の関わり、読んだ時の感動や衝撃、読んでほしいポイントを魅力たっぷりに紹介しました。堂々としたプレゼンと更に興味をひく応答で、聴衆を惹きつけていました。

1-6岡山志穂さん、2-1畑友一朗くん、3-5橋口結さんの3名は校内ビブリオバトルを勝ち抜き、県大会に向けて練習を重ねてきました。緊張と船酔いでコンディションはいいとは言いがたい3名でしたが…、見事に全員が予選で素晴らしいプレゼンを披露し、各ブロックで優勝。決勝大会に進出しました。



大会後いい笑顔の3名。大高ビブリオの大先輩も応援に▲

【大島高校生が紹介した本】

岡山さん『ひきこもりの弟だった』

(葦舟ナツ著)

畑さん『正義の教室』(飲茶著)

橋口さん『境界を生きる～性と生のはざま～』

(毎日新聞社)

結果発表までは、決勝進出者が本大会を通して感じたことなどを話す意見交流会が行われました。

そしていよいよ結果発表です。…「大島高校の畑さんが紹介した『正義の教室』がチャンプ本に輝きました。」！！

畑さん、2年連続おめでとうございます。

大島高校では毎年全校生徒がビブリオバトルを行います。ビブリオバトルで得られる本や人との出会いを大切に、これからも豊かな読書活動を継続してください。(文責：角)

大会に出場した3名の皆さん、お疲れさまでした。



名作

まちがいさがし

時間を奪う灰色の男たちの恐ろしいくらみを止めようとモモは奔走しますが、うまくいきません。落ち込む彼女の前に一匹の亀が突然現れます。その甲羅には不思議な文字が浮かび上がってきて……。

下の2枚の絵の違いを5か所見つけてください。



『モモ』

ミヒヤエル・エンデ

円形劇場の遺跡に住み着いたもじやもじやの髪に継ぎはぎだらけの服を着た風変わりな少女、モモ。彼女に話を聞いてもらおうと、語り手はなぜか気持ちが明るくなり、良い考えが浮かびます。モモは町の人々と楽しく生活していましたが、ある時、全身灰色づくめの男たちが現れます。彼らは時間を「時間貯蓄銀行」に預ければ効率的な生活ができると言葉巧みに持ちかけます。自由な時間を奪われてしまった人々を救うために、モモの冒険が始まります。私たちに「時間とは何か」を問いかける、現代社会への批判も込めたファンタジー童話です。

ミヒヤエル・エンデ(一九二九—一九九五年)はドイツの児童文学作家です。ジーム・ボタンの機関車大旅行でデビューし、代表作に「はてしない物語」などがあります。画家の父を持っています。翻訳を担当した日本人女性とのちに結婚するなど、日本と縁が深く、長野県にある黒姫児童館にはエンデに関する多くの資料が展示されています。

※『モモ』は岩波書店から刊行されています。

※ 答えは、図書館で確認してください。